

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	キリスト教への入門。宗教としてのキリスト教の特徴と歴史を学ぶ。イエスの生涯と思想について福音書を通して学ぶ。文学作品として福音書を読む。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聖書の内容 (1)、キリスト教はどのような宗教か 2) 聖書の内容 (2)、礼拝と音楽 (1) 3) 古代イスラエルの歴史、礼拝と音楽 (2) 4) 神と人間 (1) 5) 神と人間 (2)、礼拝と音楽 (3) 6) イエスの教え (1)、福音書について 7) イエスの教え (2) 8) イエスの教え (3) 9) イエスの生涯 (1) 10) イエスの生涯 (2) 11) イエスの生涯 (3) 12) キリスト教の歴史 (1) 13) キリスト教の歴史 (2) 14) イエスの生涯 (4)、試験 15) まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常点50%（小テストおよび小レポートを含む）、期末の試験50%を原則とする。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻しないこと。聖書を持参すること。
教科書 Textbook(s)	「聖書」（どの聖書を用いるかは、最初の講義で指示する）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	キリスト教への入門。宗教としてのキリスト教の特徴と歴史を学ぶ。イエスの生涯と思想について福音書を通して学ぶ。文学作品として福音書を読む。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（授業の目的と概要、宣教師とミッションスクール） 2) キリスト教の教え（キリスト教教理、十戒、使徒信条） 3) キリスト教の歴史（キリスト教通史、教会史概論） 4) キリスト教の人物（キリスト教思想史） 5) キリスト教の文化1（キリスト教の文化、キリスト教の儀式と典礼） 6) キリスト教の文化2（キリスト教の祝祭日、教会暦） 7) 旧約聖書とイスラエルの歴史1（旧約聖書概論、古代イスラエル史） 8) 旧約聖書とイスラエルの歴史2（天地創造、アダムとエバの物語を読む） 9) 福音書の基礎知識（新約聖書概論、新約聖書の歴史） 10) イエスの教え1（山上の説教を読む） 11) イエスの教え2（主の祈りを読む） 12) イエスの生涯1（クリスマス物語を読む） 13) イエスの生涯2（イエスと隣人愛） 14) 「試験」（授業中試験）とイエスの生涯3（イエスとわたし） 15) イエスの生涯と思想（イエスと現代）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	受講の態度、数回のレポート、試験を総合して評価。欠席回数が多い者には単位を認定しないことがある。5回以上欠席した場合は、原則として受験資格を失う。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻しないこと。聖書を持参すること。
教科書 Textbook(s)	「聖書」（どの聖書を用いるかは、最初の講義で指示する）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。さらにキリスト教思想（原罪論、贖罪論、終末論など）のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。神戸松蔭の建学の精神を理解することを目的とします。
授業計画 Syllabus	<p>本授業は下記の要領で15回の授業を実施します。授業計画は下記の通りです。</p> <p>1回目 オリエンテーション 授業の目標・内容・全体像、評価基準、試験、聖書等の説明。</p> <p>2回目 キリスト教教理の基礎 キリスト教教理、十戒、主の祈り、使徒信条。</p> <p>3回目 キリスト教史の基礎 キリスト教通史、教会史概論。</p> <p>4回目 キリスト教思想の基礎 キリスト教の人物、キリスト教思想史。</p> <p>5回目 キリスト教文化の基礎Ⅰ キリスト教の文化、キリスト教の儀式と典礼。</p> <p>6回目 キリスト教文化の基礎Ⅱ キリスト教の祝祭日、教会暦。</p> <p>7回目 旧約聖書の基礎Ⅰ 旧約聖書概論、旧約聖書時代史。</p> <p>8回目 旧約聖書の基礎Ⅱ 旧約聖書を読むⅠ—ノアの箱船の物語を読む（創世記6-9章）</p> <p>9回目 旧約聖書の基礎Ⅲ 旧約聖書を読むⅡ—十戒を読む（出エジプト記20章2-17節、申命記5章6-21節）</p> <p>10回目 新約聖書の基礎Ⅰ 新約聖書概論、新約聖書時代史。</p> <p>11回目 新約聖書の基礎Ⅱ 新約聖書を読むⅠ—主の祈りを読む（マタイ6章9-15節/ルカ11章2-4節）</p> <p>12回目 クリスマスの基礎 クリスマスの文化、クリスマスの聖書を読む。</p> <p>13回目 新約聖書の基礎Ⅲ 新約聖書を読むⅡ—心のテキストを読むⅡ（マタイ6章21節/ルカ12章34節）</p> <p>14回目 試験と新約聖書の基礎Ⅳ 試験（授業中試験）、新約聖書を読むⅢ—心のテキストを読むⅡ（マルコ12章28-34節）</p> <p>15回目 キリスト教の基礎 キリスト教の多様性</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	学期末（14回目授業で実施）に行う試験評価を基本としつつ、そこに通常評価を加味して総合的に成績を評価します。試験評価とは、期末試験に基づく評価であり、通常評価とは、授業態度や授業への積極的な参加状況などに基づく評価を指します。評価の配分は「試験評価70%」「通常評価30%」とします。
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。さらにキリスト教思想（原罪論、贖罪論、終末論など）のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。神戸松蔭の建学の精神を理解することを目的とします。						
授業計画 Syllabus	第1回:オリエンテーション 第2回:キリスト教を学ぶ意味 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) 第5回:新約聖書ダイジェスト 第6回:イエス・キリストの生涯 (1) 第7回:イエス・キリストの生涯 (2) 第8回:イエス・キリストの生涯 (3) 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 第11回:ローマ教皇列伝 第12回:キリスト教思想 (1) 原罪論 第13回:キリスト教思想 (2) 贖罪論 第14回:キリスト教思想 (3) 終末論 第15回:まとめと試験						
参照URL Reference URL (s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	筆記試験70%、出席・レポート等平常点30%						
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。						
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。						
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。最初に、キリスト教とはどんな宗教かを概観し、キリスト教における聖書の位置づけを説明します。その上で、旧新約聖書を部分ごとに概観しながら、古代イスラエルの歴史、イエス・キリストの生涯と教え、原始キリスト教会の働きなどについて講義します。これを通して、キリスト教を理解する上で是非とも必要な基礎的知識を身につけていただきます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>*今学期はイエス・キリストに焦点を当てて学びます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 イエスの世界（1） 第4回 イエスの世界（2） 第5回 イエスを知るには：福音書について 第6回 イエスの誕生（1） 第7回 イエスの誕生（2） 第8回 イエスの公生涯（1）：宣教の始まり 第9回 イエスの公生涯（2）：奇跡の意味 第10回 イエスの公生涯（3）：たとえ話と神の国 第11回 イエスの公生涯（4）：山上の説教 第12回 受難と復活（1） 第13回 受難と復活（2） 第14回 キリスト教の誕生 第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と出席状況によって評価します（試験70%、出席状況30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テストをおこなう場合もあります。また、遅刻や私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約続編付き）（日本聖書協会）</p> <p>●既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。最初に、キリスト教とはどんな宗教かを概観し、キリスト教における聖書の位置づけを説明します。その上で、旧新約聖書を部分ごとに概観しながら、古代イスラエルの歴史、イエス・キリストの生涯と教え、原始キリスト教会の働きなどについて講義します。これを通して、キリスト教を理解する上で是非とも必要な基礎的知識を身につけていただきます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>*今学期はイエス・キリストに焦点を当てて学びます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 イエスの世界（1） 第4回 イエスの世界（2） 第5回 イエスを知るには：福音書について 第6回 イエスの誕生（1） 第7回 イエスの誕生（2） 第8回 イエスの公生涯（1）：宣教の始まり 第9回 イエスの公生涯（2）：奇跡の意味 第10回 イエスの公生涯（3）：たとえ話と神の国 第11回 イエスの公生涯（4）：山上の説教 第12回 受難と復活（1） 第13回 受難と復活（2） 第14回 キリスト教の誕生 第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	主に試験と出席状況によって評価します（試験70%、出席状況30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テストをおこなう場合もあります。また、遅刻や私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。						
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約続編付き）（日本聖書協会）</p> <p>●既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。最初に、キリスト教とはどんな宗教かを概観し、キリスト教における聖書の位置づけを説明します。その上で、旧新約聖書を部分ごとに概観しながら、古代イスラエルの歴史、イエス・キリストの生涯と教え、原始キリスト教会の働きなどについて講義します。これを通して、キリスト教を理解する上で是非とも必要な基礎的知識を身につけていただきます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>*今学期はイエス・キリストに焦点を当てて学びます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 イエスの世界（1） 第4回 イエスの世界（2） 第5回 イエスを知るには：福音書について 第6回 イエスの誕生（1） 第7回 イエスの誕生（2） 第8回 イエスの公生涯（1）：宣教の始まり 第9回 イエスの公生涯（2）：奇跡の意味 第10回 イエスの公生涯（3）：たとえ話と神の国 第11回 イエスの公生涯（4）：山上の説教 第12回 受難と復活（1） 第13回 受難と復活（2） 第14回 キリスト教の誕生 第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と出席状況によって評価します（試験70%、出席状況30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テストをおこなう場合もあります。また、遅刻や私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約続編付き）（日本聖書協会）</p> <p>●既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】キリスト教入門</p> <p>本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。最初に、キリスト教とはどんな宗教かを概観し、キリスト教における聖書の位置づけを説明します。その上で、旧新約聖書を部分ごとに概観しながら、古代イスラエルの歴史、イエス・キリストの生涯と教え、原始キリスト教会の働きなどについて講義します。これを通して、キリスト教を理解する上で是非とも必要な基礎的知識を身につけていただきます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>*今学期はイエス・キリストに焦点を当てて学びます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 イエスの世界（1） 第4回 イエスの世界（2） 第5回 イエスを知るには：福音書について 第6回 イエスの誕生（1） 第7回 イエスの誕生（2） 第8回 イエスの公生涯（1）：宣教の始まり 第9回 イエスの公生涯（2）：奇跡の意味 第10回 イエスの公生涯（3）：たとえ話と神の国 第11回 イエスの公生涯（4）：山上の説教 第12回 受難と復活（1） 第13回 受難と復活（2） 第14回 キリスト教の誕生 第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	主に試験と出席状況によって評価します（試験70%、出席状況30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テストをおこなう場合もあります。また、遅刻や私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>聖書（新共同訳、旧約続編付き）（日本聖書協会）</p> <p>●既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-1／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	聖書から人間と自然の関係を考えるのに適したテキストを読み解説する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 旧約の全体像、パレスチナの風土 2) 古代イスラエル史の概略、パレスチナの四季 3) 古代イスラエルにおける農民の暮らし 4) 家畜の飼育、羊飼いの生活 5) 詩篇（賛美の歌） 6) 詩篇の中の羊飼い 7) 詩篇（シオンの歌） 8) 詩篇（嘆きの歌） 9) 聖書の中の動物と植物 10) 安息日と安息年 11) 天地創造；創世記1章以下（1） 12) 天地創造；創世記1章以下（2） 13) 詩篇104篇 14) 詩篇104篇、試験 15) まとめと補足説明
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点40%（小レポートを含む）、筆記試験60%。ただし、優秀な小レポートに関しては、加点することがある。
履修上の注意 Requirements and policy	聖書を毎回持参すること。配布する教材をファイルしておくこと。
教科書 Textbook(s)	聖書。1回生で使用したものと同一でよい。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-10/キリスト教史II/（歴史と文化）						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ：宗教国家アメリカの形成と発展】</p> <p>本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。また、アメリカの時事問題についても言及し、受講生に読解の手がかりを与えます。到達目標は、宗教国家という観点から、アメリカの本質を知ることです。それによって、日米関係の在り方を考察してもらえればよいです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：アメリカ・キリスト教史（1）宗教国家アメリカの胎動</p> <p>第3回：アメリカ・キリスト教史（2）ピルグリム・ファーザーズ</p> <p>第4回：アメリカ・キリスト教史（3）大覚醒</p> <p>第5回：アメリカ・キリスト教史（4）マニフェスト・ディスティニー</p> <p>第6回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（1）文化論</p> <p>第7回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（2）宗教論</p> <p>第8回：アメリカの選民思想</p> <p>第9回：アメリカのキリスト教原理主義（1）モンキートライアル</p> <p>第10回：アメリカのキリスト教原理主義（2）妊娠中絶・同性愛の問題</p> <p>第11回：大統領とキリスト教（1）政策と宗教</p> <p>第12回：大統領とキリスト教（2）選挙と宗教</p> <p>第13回：アメリカの国家戦略とロビイスト</p> <p>第14回：日米の未来鳥瞰図</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	成績は筆記試験、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する予定です。割合は授業中に発表します。
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は、大学生としての常識的なマナーが備わっている学生に対して開かれています。当然ながら、講義中の甚だしく騒がしい私語、携帯電話の通話、メールの送受信、飲食、立ち歩きなどは論外です。著しく問題行動のある場合は減点の対象とします。なお、合格には2/3以上の出席が必要となります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-13／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

<p>授業の目的、概要 Objectives and content</p>	<p>【テーマ】グローバル化するキリスト教</p> <p>長い間ヨーロッパ中心に発展してきたキリスト教は、近代の海外宣教運動の結果、世界各地に根を下ろし、今や文字通りの「世界宗教」となりました。このようなグローバル化により、キリスト教の重心は今日西洋から非西洋世界にシフトつつあると言われていいます。本講座では、このようなキリスト教のグローバル化現象を、主に歴史的・異文化間的観点から考察することによってキリスト教の現在への理解を深めます。</p> <p>第1部「西洋のキリスト教」では、ヨーロッパが生み出したキリスト教諸教派について考えます。教派の違いや歴史に関する知識は現代のキリスト教の理解に不可欠です。第2部「宣教運動：派遣と受容」では、欧米のキリスト教の世界への移植のプロセスを、特に日本との関わりにおいて検討します。第3部「アングリカニズムと日本」では、アングリカン（聖公会）の日本宣教を例にとり、欧米から移植されたキリスト教が非西洋世界にどのように根を下ろし発展してきたかを検証します。</p> <p>第2部ではSPGなど英国国教会の宣教団体を、また第3部ではH・J・フォス、バーケンヘッドなど神戸松蔭と深い関わりを持つ人物を取り上げる予定ですので、本学の歴史や背景を知る上でも多めに助けとなることでしょう。</p>
<p>授業計画 Syllabus</p>	<p>■序論 第1週 神戸とキリスト教：キリスト教のグローバル化と私たち ●身近に観察できるキリスト教のグローバル化のしるしを考察する。</p> <p>■西洋のキリスト教 第2週 さまざまなキリスト教：ローマ・カトリックと東方正教 第3週 さまざまなキリスト教：ルター派とカルヴァン派 第4週 さまざまなキリスト教：アングリカンとメソヂスト 第5週 さまざまなキリスト教：福音派とペンテコステ派 ●以上は、キリスト教の主要教派の特徴と歴史を概観する。</p> <p>■宣教運動：東西の架橋 第6週 キリスト教と宣教運動 ●16世紀以降のキリスト教海外宣教運動を概観する。 第7週 プロテスタントの宣教運動 ●モラヴィア派の宣教活動 ●SPG、CMSの歴史と特徴、活動について。 第8週 日本のキリスト教受容：16世紀 ●フランシスコ・ザビエルとそれに続くカトリックの宣教史。 第9週 日本のキリスト教受容：19世紀 ●プロテスタント宣教の歴史を概観。 ●主要なミッション・スクールとその教派的背景。 第10週 キリスト教都市ヨコハマ ●日本最初のプロテスタント宣教拠点となった横浜の教会とその歴史。</p> <p>■アングリカニズムと日本 第11週 アングリカンと日本：C・M・ウィリアムズ ●ウィリアムズの活動を通してアングリカンの日本宣教の始まりを考える。 第12週 アングリカンと日本（続）：H・J・フォス または、女性宣教師の働き：バーケンヘッドとレオノーラ・リー ●松蔭に関わった宣教師の働きを通してSPGないし女性の貢献を考える。 第13週 日本聖公会の成立と歩み ●アングリカンの宣教活動から日本聖公会の創設に至る過程を考える。</p> <p>■まとめ 第14週 キリスト教と宣教：その意義と諸問題 ●キリスト教史における「宣教」の意義を考える。 ●キリスト教が今日直面する諸問題（世俗主義、諸宗教、南方シフトなど）を概観。 第15週 結語</p>

授業計画 Syllabus	注意：以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポートと出席状況によって評価します。小レポート10%、期末レポート60%、出席状況30%の予定です。また、遅刻や私語などの受講態度の良し悪しも評価に反映させます。詳細は初回の授業で説明します。
履修上の注意 Requirements and policy	4回以上欠席した場合は不合格とします。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。なお、私語などによって他の履修者に迷惑をかけることを意に介しない学生は履修を遠慮していただきます。
教科書 Textbook(s)	教科書はありません。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-16／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	松平 功						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業のテーマは、「女性として人生の通過儀礼を考える」というものです。その目的は、各々の学生が一人として、また一人の女性として人生を歩んで行く中であって、それぞれが迎えるであろう、人生を考えながら、その歩みにそって現代社会における人生論や日本文化とキリスト教の関わりを考えるものです。人生における無視できない社会的側面を現代社会の枠組みの中から、どのように理解するのかという問題に加え、現代社会での生き様について理解を深めるといった広範囲なものとなります。科目の性質上、授業内容に重複する部分がありますのでご了承ください。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>授業計画 第一回オリエンテーション：シラバス配布および授業説明等 第二回現代社会における女性についてⅠ：就職等の人生の通過点を取り上げる 第三回現代社会における女性についてⅡ：女性が社会で働くとは 第四回現代社会における結婚についてⅠ：現代日本社会における結婚とは？ 第五回現代社会における結婚についてⅡ：結婚式とは？ 第六回現代社会における結婚についてⅢ：キリスト教の結婚とは？ 第七回現代社会における性の問題についてⅠ：ジェンダー問題について 第八回現代社会における性の問題についてⅡ：性同一性障害について 第九回現代社会における家族について：生まれ来る命について 第十回現代社会における家族に焦点をあてて：家族形成・家族の崩壊等について 第十一回死者の尊厳とキリスト教Ⅰ：死者に対する考え方を熟考 第十二回死者の尊厳とキリスト教Ⅱ：現代社会の死者に対する考察 第十三回死者の尊厳とキリスト教Ⅲ：現代社会の死者への関わりについて 第十四回死者の尊厳とキリスト教Ⅳ：キリスト教の死についての概念 第十五回授業のまとめとテスト</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義、意見交換						
評価方法 Evaluation	<p>1：授業態度、出席と授業の参加（意見の発言等）を重視します。欠席を減点対象にします。欠席が多くなれば不合格になることがありますのでご注意ください。</p> <p>2：授業中の小テストを約三回程度予定しています。小テストは最終点数に加点します。なお、小テストは欠席すると受けることはできませんので、あらかじめご了承ください。また、遅刻した場合も同様です。</p> <p>3：「死者の尊厳」（仮題名）について、レポートを書いていただく予定です。レポートについての詳細は授業の中で行ないます。</p> <p>4：期末テストは手書きのノート（ノートのコピーは不可）、授業での配布物、聖書を持ち込みしてもかまいません。</p> <p>5：評価の割合は、平常点40%、小テスト10%、レポート10%、期末テスト40%です。</p> <p>6：小テストとレポートの返却は最終点数をつけた後になりかなり遅くなります。後期の授業ということもあり、返却できない可能性も含め、その点のご了承をお願いいたします。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>注意事項：授業には聖書、ノート（配布しているレジメも含む）を必ず携帯してください。授業態度及び上記の不携帯などによって、授業の妨げとならないようご注意ください。私語や立ち歩きなどで、他の生徒への授業の妨げと判断した場合、減点という処置を視野に入れて考慮させていただきますので、予めご注意ください。</p>						
教科書 Textbook(s)	教材は新共同約聖書です。大きさ等の種類は問いません。その他は授業中にお伝えします。						
参考書 Reference(s)							

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-17／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	日野 謙一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	宗教運動と弾圧について考える 歴史過程において、新たな思想や宗教の世界観が人々（民衆）の心を動かし、社会の変動へと向かう活動や運動となつて、現実の社会に大きな影響を与えた出来事が多くある。それらの運動は、時代を先取りしているために、権力者から弾圧されてきた。講義では、日本の歴史過程のなかで、二つの時期、中世から近世にかけての、キリスト教と浄土真宗の動向と弾圧、近代のキリスト教と他宗教の動向と弾圧を取り上げたいと思う。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 第2回 「民衆」の生活史を考える 第3回 「千年王国」論と「ミロク」信仰 第4回 中世期における宗教 第5回 中世期における諸宗教と弾圧 第6回 中世期における諸宗教と弾圧 第7回 中世期におけるキリスト教と弾圧 第8回 中世期におけるキリスト教と弾圧 第9回 近代日本における民衆の生活と宗教 第10回 近代日本における国家と宗教 第11回 近代日本におけるキリスト教の動向と弾圧 第12回 近代日本におけるキリスト教の動向と弾圧 第13回 近代日本における他宗教の動向と弾圧 第14回 近代日本における他宗教の動向と弾圧 第15回 授業を通して
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式、プリント等を使用する
評価方法 Evaluation	平常点（30％）、期末レポート（70％）
履修上の注意 Requirements and policy	歴史的な課題を扱うことになる。興味のある人は参加してください。
教科書 Textbook(s)	使用しない
参考書 Reference(s)	海老沢・大内共著『日本基督教史』日本基督教団出版局 網野善彦『無縁・公界・楽』平凡社 神田千里『島原の乱』中公新書 笠原一男『一向一揆』評論社 小池他編『宗教弾圧を語る』岩波新書
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-18／キリスト教学II／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【テーマ】多元世界におけるキリスト教と諸宗教</p> <p>20世紀後半、世界は著しく小さくなり、世界の諸宗教が相互に接する機会が多くなりました。一世代前、世界の宗教は近代化・世俗化の進行と共に消滅すると考えられていましたが、21世紀の今日、世界において諸宗教の演じる役割は、良きにつけ悪しきにつけ増大しています。私たちは今や宗教的な多元世界に住んでいるのです。</p> <p>キリスト教はイエス・キリストこそが救いに至る唯一の道であり、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ人は救われると教えてきました。しかし、今日の状況にはこのような伝統的な理解では対応しきれず、他宗教をいかに理解し、いかに共存していくかを問直すことがキリスト教にとっても大きな課題となっています。「諸宗教の理解なしに真のキリスト教理解はありえない」とさえ言われるほどです。本講座では、このような問題意識に基づいて、キリスト教と諸宗教の関わりを様々な角度から考察し、その両者についての理解の深めていきたいと思えます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 人間と宗教（1） 第3回 人間と宗教（2） 第4回 聖書の宗教観（1）：旧約聖書 第5回 聖書の宗教観（2）：新約聖書 第6回 古代世界におけるキリスト教 第7回 イスラムとキリスト教（1）：イスラム教の起源と特徴 第8回 イスラムとキリスト教（2）：歴史における両者の関係 第9回 イスラムとキリスト教（3）：キリスト教のイスラム理解 第10回 インドの宗教（1）：ヒンドゥー教の起源と特徴 第11回 インドの宗教（2）：インドのキリスト教 第12回 インドの宗教（3）：キリスト教のヒンドゥー教理解 第13回 日本宗教とキリスト教 第14回 現代キリスト教の他宗教理解：その類型と宗教間の対話 第15回 まとめ（レポート提出ないし試験実施日）</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式						
評価方法 Evaluation	レポートおよび出席状況により評価します（レポート70%、出席状況30%の予定）。4回以上欠席した学生は原則的に不可とします。また、遅刻や私語など受講態度の良し悪しも正式に影響します。						
履修上の注意 Requirements and policy	初回の授業にて評価方法や出席の取り方なども含めた履修上の注意を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないようにして下さい。また、私語などによって他の履修者に迷惑をかけることを意に介しない学生は履修を遠慮していただきます。						
教科書 Textbook(s)	特にありません。						
参考書 Reference(s)	必要に応じて紹介します。また、プリントを配布します。						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-2/キリスト教学II/（聖書）						
担当教員	堀川 敏寛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	本講義では旧約聖書の読解を講義内容の主とする。 キリスト教学の概論を経た学生を対象に、旧約聖書思想における更なる広がりや深みを講義する。 この授業では、旧約聖書の中で、特に律法と預言書を中心に取り上げる。 その際、宗教に馴染みの無い学生にも理解できるように、比較宗教学や童話・民話の理解を参照したい。
授業計画 Syllabus	第1回オリエンテーション。授業の流れと方向性の提示 第2回宗教とは何か。我々の日常における宗教との遭遇について 第3回日常と非日常。それらを媒介するものとは。イエスとは 第4回聖書の作者は誰か、編者は？グリム童話を参考に 第5回聖書世界の広がりや起源、その影響力の理由 第6回律法と福音（旧約聖書と新約聖書） 第7回ユダヤ教とキリスト教における罪と救済、そして信仰とは 第8回レビ記の食物規程に見る律法 第9回旧約聖書における契約の意義と重要性 第10回神の直接支配（神政政治）から間接支配（王朝時代）へ 第11回預言者の登場とその時代背景 第12回預言者のメシア預言、そして新約聖書へ 第13回旧約聖書と深層心理学。フロイト・ユングの宗教理解 第14回仏教とキリスト教。同一性と差異 第15回講義のまとめと試験対策
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義。出席重視
評価方法 Evaluation	授業中の小テスト 40点 中間レポート 20点 ノート提出 10点 学期末試験 30点
履修上の注意 Requirements and policy	中間レポートの内容は授業中に指示する。 ノート提出は、受講生の授業態度と意欲を評価するため、第14回目に提出してもらい評価対象となる。
教科書 Textbook (s)	指定しない。講義は基本的に黒板の板書によって進める。
参考書 Reference (s)	授業中に随時紹介する。特別参考書を購入する必要はない。
備考 Remarks	学期末試験のみでは不合格。通常授業に出席し、そこでの定期的な小テストが不可欠。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-4／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	小林 昭博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の主題 イエスの生涯—福音書を読む。</p> <p>授業の目的 イエスの振る舞いと言葉に触れる。</p> <p>授業の概要 本授業は、福音書を精読することを通して「イエスの生涯」に迫り、「イエスの振る舞いと言葉に触れる」ことを目的としています。ですから、同一担当者の「キリスト教学II-3」とは異なり、新約聖書そのものを丁寧かつ厳密に読んでいきます。ですから、新約聖書を読みたい、新約聖書を知りたいと考えている学生やイエスがどのような人物であり、どのようなことを行ったり教えたりしたのかを知りたいと考えている学生を受講者として想定しています。聖書を読むことに慣れていないと、最初は少し難しく感じるかもしれませんが、慣れてくれば、聖書を読む上でのコツをつかむこともできますし、特に福音書は小説を読むように親しく接することのできる文書ですので、「聖書は難しくよく分からないから」と感じている学生にも履修してもらいたいと思っています。本学においてキリスト教を学ぶ機会を得た学生のみなさんが、イエスの振る舞いと言葉に触れる経験をしてもらえたらと願っています。</p> <p>なお、新約聖書学は歴史学や文献学としても最も精緻に研究されている分野ですので、歴史学や文献学に関係する分野を専攻する学生には、歴史学や文献学の研究の方法（方法論）を学ぶ機会にもなると思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>本授業は下記の要領で15回の授業を実施します。授業計画は下記の通りです。</p> <p>1回目 オリエンテーション 授業の目標・内容・全体像、評価基準、レポート、聖書の引き方等の説明。</p> <p>2回目 福音書研究の現状 正典四福音書の思想と特質、共観福音書問題、第四福音書。</p> <p>3回目 イエスの時代（マルコ1：1-8、マタイ2：1、ルカ1：5、マルコ15：1-15） 紀元前後のギリシャ・ローマ世界の歴史、ローマ帝国支配下のパレスティナの状況。</p> <p>4回目 奇跡行為者イエス1（マルコ4：35-41） 奇跡物語、ヌミノゼ感情、自然を超越するイエス。</p> <p>5回目 奇跡行為者イエス2（マルコ5：1-20） 悪霊祓い、病氣治癒、精神疾患に対する蔑視、病理学的疾病と社会文化的病氣。</p> <p>6回目 宗教とタブー1（マルコ2：13-17//マタイ9：9-13//ルカ5：27-32） 罪人との食事、誰と共に食事をするか？ 食卓仲間の問題。</p> <p>7回目 宗教とタブー2（マルコ2：23-28） 安息日論争、主役は人間か宗教か？</p> <p>8回目 イエスの家族（マルコ3：20-21、3：31-35） 家族は敵か味方か？ 家族とは誰か？ 神の家族とは？</p> <p>9回目 イエスと十二弟子（マルコ3：13-19//マタイ10：1-4//ルカ6：12-16、マルコ10：35-45） 十二弟子と十二使徒。十二弟子はイエスの理解者だったか？</p> <p>10回目 イエスの教え1（ルカ6：20-23//マタイ5：3-12） 山上の説教、貧しい者は幸いか？ 心の貧しい者は幸いか？</p> <p>11回目 イエスの教え2（ルカ10：25-37） 善きサマリヤ人の譬、ユダヤ人とサマリヤ人、隣人愛、隣人とは誰か？</p> <p>12回目 イエスの出生の秘密？（マタイ2：1-12、ルカ2：1-20） クリスマスのない福音書、二つのクリスマス物語、クリスマス物語を読む。</p> <p>13回目 イエスの恋愛（マルコ14：3-9、ヨハネ13：23-25、20：11-18、トマス114） イエスをめぐる女性たち、イエスの愛した男弟子、マグダラのマリアとイエス。</p> <p>14回目 イエスと暴力（マルコ11：15-19//マタイ21：12-17//ルカ19：45-48//ヨハネ2：13-22） 宮清め、イエスの暴力、イエスの弟子と暴力。</p> <p>15回目 イエスの死と断末魔の絶叫（マルコ15：33-41//マタイ27：45-56//ルカ23：44-49） イエスの断末魔の絶叫に関する共観福音書間での差異。</p>						
参照URL Reference URL(s)							

<p>授業方法 Class type</p>	<p>授業は講義形式によって進めます。まず担当者が福音書のテキストを取り上げ、そのテキストを歴史的・文献学的に論じ、担当者の視点からそのテキストが持つ意味を明らかにし、さらにイエスの振る舞いや言葉をローマ帝国支配下のパレスティナに社会史的に位置づけます。このように、担当者から学問的に必要不可欠な情報を受講者に伝達し、その上で受講者から質問や意見を聞き、必要な議論をしていきたいと考えています。一見難しそうに思える授業かもしれませんが、受講者に必要なことは、授業中に抱いた疑問や意見などを率直に言葉に表し、上手く言葉では言い表せないことを何とか担当者や他の受講者に伝える努力をすることです。学生と教員とが向かい合うだけではなく、学生と学生とが向かい合い、互いの疑問、意見、考え、感想を出し合える授業にできればと願っています。</p>
<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>●レポート提出資格● 原則として、3分の2以上の出席が必要となります。したがって、5回以上欠席した場合にはレポート提出資格を失うと考えてください。遅刻および早退は2回で欠席1回に数えますので、各自出席状をしっかりと把握しておいてください。なお、欠席および遅刻と早退は、評価のさいそれぞれ減点対象になりますので、注意してください。また、欠席に関する諸事情については考慮しますので、出席状況についても遠慮なく担当者にお尋ねください。</p> <p>●評価方法● 学期末のレポート評価を基本としつつ、そこに通常評価を加味して総合的に成績を評価します。レポート評価とは、学期末に指定された課題に基づくレポートを提出してもらい、その内容に基づいてなされる評価であり、通常評価とは、授業態度や授業への積極的な参加状況などに基づく評価を指します。評価の配分は「レポート評価70%」「通常評価30%」とします。</p> <p>レポート 提出期限：決定次第教務課および担当者からお知らせします。 提出場所：教務課（提出期限後は受け付けできませんので、期限を厳守してください）。 書式：パソコン（ワープロソフト）を用いてください。パソコンを使わない人は手書きで構いません。 字数：2,000字程度。 課題：授業で扱う福音書テキストから興味あるテキストの一つを選び（複数のテキストでも構いません）、そのテキストを論じ、そこで自分自身が感じたこと、思ったこと、また意見などを記してください。特にイエスの生涯を知り、イエスの振る舞いや言葉と出会い、自分がどのように考え、どのように感じたのか、イエスとの出会いが自分にとってどういう意味を持つのかなどに言及してください。なお、受講者の専攻する分野に引きつけた論述になっても構いませんので、自由な議論を展開してください。</p>
<p>履修上の注意 Requirements and policy</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業に聖書（教科書です）を必ず持参すること。 ・レポートの提出期限を厳守すること。 <p>以上の二点を遵守してください。</p>
<p>教科書 Textbook(s)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 <p>教科書は聖書です。毎授業時に必ず聖書を持参してください。新約聖書の福音書を精読する授業ですので、聖書を持たないでは授業に参加できません。また、必要に応じて旧約聖書テキストをも読みますので、旧約聖書と新約聖書が一冊になった聖書が必要です。一年生のときに聖書を購入しているはずですから、上記に掲げた聖書以外でも結構ですので、すでに持っている聖書を持参してください。</p> <p>また、毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めていきます。</p>
<p>参考書 Reference(s)</p>	<p>毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。参考文献（参考書）とは、そのときの授業の内容に関してさらに進んで学ぶために読むものですので、興味のある課題や書物については、その都度入手するか大学図書館で借りて読むなどしてください。</p>
<p>備考 Remarks</p>	